

「大リーグのパワー」

(第十三回)

イチローと新庄。両選手のニュースが連日、日本中を賑わしている。テレビのスポーツコーナーが早く始まらないかと、ソワソワしながらも心は浮き浮き。私も野球選手の一人として、彼らの一挙一動が見逃せない。

大リーグの日本人選手と言えば、数十年前に村上投手がいた。このたび、もつと古く、日本人が米国野球で活躍していたことが判明。約100年前、Jap. Mikadoうつて鳴らした早稲田大学出身の三神吾郎である。様々な国からのメンバーで構成されたAll Nationsというチームで俊足の外野手だった。素晴らしいプレーは観客を魅了し、スポーツだけでなく米国の社会にも大きな影響を与えたとされる。

健康のススメ

板東 浩

早稲田大学を創設した大隈重信は、「野球を通じて両国間に握手がなされる」とコメントした。

先日、またビッグニュースが流れた。野球選手が2回目のノーヒットノランを達成。2世紀にまたがって2リーグでの快挙だ。これは二人目でも100年前にも一人いたという。野茂が単身、侍(さむらい)として大リーグへ挑戦してからすでに7年。今回の結果だけを賞賛するのは不十分である。その裏には、長年の絶ゆまぬ努力が隠されているのだ。

今後日本人選手の手の活躍に期待したい。走攻守のスーパープレイは私たちを勇気づけ、明日への活力を与えてくれる。グローバルスタンダードの価値観で彼らはさらにパワーアップし、世界にインパクトを与えるかもしれない。

(徳島大学附属病院内科医師)